

■国葬モヤモヤ■

ほぼ週刊【松村拓也のメールマガジン】第 388 号

こんにちは、松村拓也です。

E-Mail と Facebook で松村拓也の活動についてほぼ毎週お届けしています。

ご意見、ご質問大歓迎です。

オンラインの議論をご希望の方は、気軽に返信ください。

.....

388 目次

1. トピックス：恩人の死
2. ブログより：国葬モヤモヤ
3. 今週のお誘い+今後の予定
4. 地主の学校・販売中
5. アクセスポイント：問い合わせ先
6. このメルマガについて

.....

1. トピックス：恩人の死

二人の大恩人が亡くなりました。

ひとりとは中学高校の同期生M君で、訃報が届いたのは 22 日のことでした。

M君と同じクラスになった記憶はありませんが、そもそも高 2 までまじめに教室で勉強した記憶もありません。ただ、毎朝渋谷から二人並んで学バスに乗って、一緒に登校したのを覚えています。

M君のことは「自主自立・独立独歩」としか説明できませんが、間違いなく僕にとって、最も影響を受けた友人でした。

そしてもうひとは、1999 年僕が経営する会社が潰れた時、新たに作った会社の社長になってくれたMさんで、訃報が届いたのは 26 日のことでした。

思えば僕が年上のMさんを中途採用した時、すでに会社を潰したり、傷心の旅に出かけたりと興味深い経歴の持ち主でした。

倒産に際し、暴力団と対峙する僕を一番気遣い、そして愛想を尽かせて離れて行ったMさんだからこそ、その後必死に説得し、新会社を託しました。

・

二人の死は、ある意味でどちらもふさわしい死に方でした。

独立独歩のMくんは、周囲の評価など意に介さず、家庭を壊し、人生もぶち壊し、一人寂しく死んだあと、危うく無縁仏になる間に家族の元に遺骨となって帰りました。

「M君らしい死に方だった」としか、言葉が見つかりません。

一方、気遣いの人Mさんは、10 年を超える闘病の末やせ衰えて亡くなりました。

でも、治療や入院を繰り返しながらも仕事を続け、若い後継者を育て上げ、引き継ぎも完了した上での大往生です。

多くの人から慕われるMさんの葬儀は、きっと盛大で賑やかなイベントになるでしょう。

・
一見正反対にも思える二人の死に接し、僕はどちらにも心が揺さぶられるのを感じます。
こういう現実を受け入れる・・・などと口で言うのは簡単ですが、きっと無理だと思います。
それでは一体どうなるのか、そんなことは良く分かりません。
でもきっと、なるようになる・・・とはこういうことかも知れませんね。
今日は元気のないトピックスでごめんなさい。

.....

2. ブログより：国葬モヤモヤ

国葬を目前に控え、国中がモヤモヤ状態だ。
このまま当日を迎えて良いのだろうか。
誰もがそんな思いを抱いているように思える。
今にして思えば、今回の国葬が提起されたのは随分前のことに思える。
その後、崩御されたエリザベス女王の国葬は、すでにつつがなく、いや世界が見守る中荘厳に執り行われた。
否が応でも、誰もが二つの国葬を比較して、問いかけてしまう。
こんな国葬を、本当にやって良いのだろうか。

・
だが僕は今日、国葬の是非を論じたい訳ではない。
気になるのは、この議論の「埒があかない」こと。
さらに言えば、この「埒があかない」議論ばかりがあちこちで繰り返されているように思えてならない。
辞書によれば、「埒があかない」とは、「物事が解決しない、決着がつかない、話にならない」ことを指す。
確かに安倍元首相の周りには、そんな話で満ち溢れている。
殺害の原因と言われる統一教会のこと。
経済政策の功績と言われるアベノミクスのこと。
他にも、公文書の改ざん、金まみれのオリンピック、原発の廃炉処理、軍備増強など、いくらでも思いつく。
少なくとも、安部元首相の死が国葬に値するかどうかをその功罪で判断するなど、簡単にできるわけがない。

・
話を戻そう。
今日の課題は、国葬に対する僕のモヤモヤ感であり、それが僕だけでなく多くの人が持つ感情だということだ。
そこでまず、自身のモヤモヤ感の正体を具体的に突き止めたい。
すでに 27 日に向けて準備が進められ、恐らく予定通りに実施されるだろう。
このことについて僕自身どう思うのかと問えば、答えは「ま、仕方ない」という感じ。
もしも僕が岸田首相の親友なら、「お前、今からでも遅くない、国葬は中止しろ」と言えるかもしれない。
そしてもし、本気で止めたいのなら「もし中止しなければ、お前とは絶交だ」など、勝手に処罰すればいい。
だが僕は、それを言えずにモヤモヤしているわけではない。
もう少し自分の思いに分け入ってみよう。

・
実施しても良いが、その内容に不満があるのか。
報道を見ていると、主な反対理由はその方法や内容だ。
国葬と名乗ること、国会に諮らず閣議だけで決めたこと、全額国費で賄うこと、国民に弔意を求めること、な

どなど。

だが、これらの背景にはさらに多くの議論があり、準備が進む実施方法の是非を論じることも果てしない気がする。

ましてや、僕自身「こういう葬儀にするべきだ」という腹案がある訳では、決してない。

つまり、僕のモヤモヤは、葬儀のやり方に関する感情とは思えない。

・

そこで僕は、エリザベス女王の葬儀を参考に考えることにした。

その理由は、こうしたモヤモヤをあまり感じなかったから。

このモヤモヤ感は、常に感じるわけではないので、感じる時と感じない時を比較してみよう。

まず、女王の葬儀は他所の国の他人事なので、客観かつ冷静に見ている自分を感じる。

それに対し、今回の国葬モヤモヤは、完全に当事者意識が生み出す感情に思えてきた。

僕を感じる当事者意識は、これが英国でなく日本であること、つまり「国葬」という言葉に対する感情であることは明らかだ。

よく考えてみれば、女王の葬儀は僕にとっての国葬ではない。

いやむしろ、英国を支配する大地主のお婆ちゃんであり、その葬儀だから国葬と呼ぶにすぎないだけ。

恐らく、日本でも天皇の葬儀であればあえて「国葬」などと呼ぶ必要も無く、誰もモヤモヤ感じないだろう。

・

振り返ってみれば、今回の国葬論議は、安部元首相の殺害に際し世界各国から弔意が示されたことに、端を発している。

僕たち国民から見ても、安部元首相が「不慮の死を遂げたこと」に異論はない。

だからこそ、外交儀礼も含め、海外からの弔問に答えるため、国家としての葬儀を行いたいという思いに僕はモヤモヤしない。

考えてみると、岸田首相や自民党関係者が連呼する葬儀の名称は「国葬」でなく「国葬儀」という言葉だ。

つまり、当初から岸田首相が目論む政治イベントに過ぎなかったはずの「国葬儀」が、どこかでボタンを掛け違えて「国葬」に変化して暴走してしまった。

そう考えると僕のモヤモヤは吹き飛んで、晴れ晴れとした気分になる。

だったらそう言えばいいだけのこと、「丁寧な説明」と言いながら、全然説明になっていないことこそが、モヤモヤの正体ではなからうか。

<https://nanoni.co.jp/20220926/>

.....

3. 今週+今後の予定（下記以外はすべて応相談）

【凡例】◎：申込不要、○：申込必要、×：一般参加不可

■今週の予定

(火) 09/27 なのに（各所）作業日

訪問×：08-18時 真鶴町各所（真鶴）

会議○：20-21時 LR 定例営会議（zoom）

(水) 09/28 なのに（各所）作業日

会食○：17-20時 AZ51 懇親会（反町）

- (木) 09/29 なのに (自宅) 作業日
会議× : 17-18 時 理知の杜理事会 (zoom)
- (金) 09/30 なのに (自宅) 作業日
会議○ : 08-09 時 地主の学校ゼミ (zoom)
- (土) 10/01 なのに (世田谷) 作業日
交流◎ : 09-15 時 よろず相談会 (笑恵館)
- (日) 10/02 いづみ (横浜) 作業日
交流◎ : 09-17 時 いづみ PJT オープンデイ (反町)
会議× : 10-11 時 100smile 会議 (反町)
交流◎ : 12-14 時 いづみ PJT 説明会 (反町)
- (月) 10/03 なのに (自宅) 休業日

■定例の予定

- 月曜・第 2,4 22-23 時 ○八島花文化財団準備室 MTG (zoom)
- 火曜・第 1 08-09 時 ×AR 子ども書籍 MTG (zoom)
第 2,4 20-21 時 ○LR 定例営会議 (zoom)
- 水曜・第 1 10-12 時 ○OforW 経営運営会議 (zoom)
- 木曜・第 2 15-16 時 ×かなこ PJT (zoom)
17-19 時 ◎笑恵館クラブ運営会議 (笑恵館)
第 3 13-18 時 ◎笑恵館なるほどデイ (笑恵館)
18-20 時 ○笑恵館完全持ち寄り食事会 (笑恵館)
20-21 時 ○一宮庵クラブ運営会議 (成城)
第 4 17-19 時 ◎笑恵館クラブ運営会議 (笑恵館)
- 金曜・第 1 08-09 時 ○地主の学校ゼミ (zoom)
- 土曜・毎週 09-17 時 ◎よろず相談会 (笑恵館)
第 2 12-14 時 ×RYUSEN PJT (zoom)
- 日曜・毎週 09-17 時 ◎いづみ PJT オープンデイ、説明会 (反町)
第 1 10-11 時 ×100smile 会議 (zoom)
第 4 10-14 時 ○名栗の森オーナーシップクラブ月例会 (飯能)

■今後の予定

- 10/04 交流○ : 10-12 時 佐谷さん来訪 (反町)
- 10/07 交流○ : 17-19 時 AR 食事会 (三軒茶屋)
- 10/11 講義× : 14-17 時 早稲田大学出張講座 (笑恵館)
- 10/15 交流○ : 17-20 時 八島花文化財団お披露目会 (京島)
- 10/16 交流○ : 14-16 時 小商い建築の公共性について考える (反町)
- 10/21 会議× : 10-12 時 HFA 定例会議 (恵比寿)
- 11/14 交流× : 17-20 時 K君 MTG (日本橋)
- 11/20 交流○ : 15-17 時 いづみ・トラウマセミナー (反町)
- 11/22-24 出張× : 堺・有田・冷水視察 (大阪・和歌山)
- 12/01-06 旅行× : 結婚 40 周年 (モルディブ)

松村の予定はこちらで随時公開しています。

<http://nanoni.co.jp/schedule>

.....

4. 地主の学校・販売中

拙著【地主の学校】はこちら

<https://www.bungeisha.co.jp/bookinfo/detail/978-4-286-23339-0.jsp>

セミナー、読書会など気軽にご相談ください。

.....

5. アクセスポイント

松村拓也

メール takuya@nanoni.co.jp

携帯 090-9830-3669

自宅：株式会社なのに（取締役・平社員）

〒226-0016 神奈川県横浜市緑区霧が丘 3-15-1

<http://nanoni.co.jp/>

職場：一般社団法人日本土地資源協会（代表理事）

<http://land-resource.org/>

〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-27-19 笑恵館

<http://shokeikan.com/>

主な所属団体：

特手非営利活動法人 HOME-FOR-ALL（事務局長）

<http://www.home-for-all.org/>

一般社団法人地域社会圏研究所（事務局長）

<https://localrepublic.jp/>

.....

6. このメルマガについて

松村拓也とご縁のあった方に、日々の活動やブログ記事の抜粋などの情報をほぼ毎週お届けします。

参加希望、ご意見、ご質問など、何でもこのメールに返信してください。

バックナンバーはこちら

<http://nanoni.co.jp/magazine/>

メール配信をご希望の方はこちら

<http://eepurl.com/dHjgFX>

まぐまぐ版はこちら

<https://www.mag2.com/m/0001693746>